

動物 河馬の手紙

濱 田 格

僕の大好きな日本の少年少女諸君！

僕は上野の動物園に居るアフリカ生れの河馬です。

河馬と云ひますが、何だか水の中に棲んでる馬の種類のやうに聞えますが、實は僕の中から何處をさがしたつて馬に似た處なんか何一つ無いのですよ。多分僕と云ふ動物に就てまだ何も知らなかつた昔の人が、遠くから僕達仲間が水の中を泳いでる姿を眺めて勝手につけた名前だらうと思ふのです。だから本當を云ふと僕は河馬と云ふ名前はありません。だから本當を云ふと僕は河馬と云ふ名前はありません。やつぱり本名のヒツポポタマス(Hippopotamus)と呼んで頂き度いものだと思つて居ます。

でもヒツポポタマスは一寸呼びにくい厄介な名前ですね。だから僕自身は短かくヒツポミだけ云つて居ます。

ネ。ヒツポなら何だか可愛いくていゝでせう。……え？

『尻尾』と間違ひさうですつて？ 溺つたなア。

西洋人達は、顔の醜い人や姿の悪い人を見るに真ぐ僕を引合ひに出して

『何だあいつの恰好を見ろよ。まるでヒツポポタマスみたいぢやないか』

なんて悪口のタネに使ひますが、僕、あんまりいゝ氣持ちは致しません。日本の人達は決してそんな言葉を使ひませんね。だから僕は日本が一番好きなんです。

こは云ふものゝ、僕の恰好は吾ながらあんまり上等だとは思へませんね。何しろ圖體の大きい事では象君の次が僕

で、僕の仲間には一千貫目以上あるのがいくらも居ます。坊ちゃんや嬢ちゃんをさつと百五十人も一緒にした程の目

方なんですもの。皮の厚さミ來たらこれはたしかに象君よりずつミ厚くて八分から一寸五分位もあります。いつだが剥がした皮だけの重さが六十七貫目もあつたさうですよ。さうです、お相撲さんの横綱二人分もの目方が皮だけであるんですから呆れたものでせう。

處が、こんな大きなからだで居て、脚が四本共その割合に細くて短かいのです。だからからだの長さが十五尺もあるのに、地べたから肩までの高さは精々五尺までしかありません。その僻、顔ミ來たら途方もなく大きくて幅廣で、殊に口の大きい事は先づ以て世界一でせう。かき思ふミ、何ミまた僕の耳の小さい事でせう。眼も割合に小さくて、ひきく上の方へ飛び出して居ます。鼻の穴も上向きに突き出して居ます。

何ミ云ふ奇妙な形なんでせう。けれど、此の奇妙な形はそれ／＼僕が生きて行く爲めに大變都合よく出來て居るんですよ。それを一つお話し致します。

先づ第一に僕の耳ミ眼ミ鼻ミをよく見て下さい。此の三つが丁度同じ水平面上に一直線に竝んで居ませう。さうで

す、こんな風にちやんミ一直線に竝んでる動物が外にありませんか。だから僕がミつぶりミ全身を水の中にかくしてしまつた時でも、耳ミ目ミ鼻だけはちやんミ水面に竝んで出して置けるのです。しかもそれが皆非常に小さいから水面を流れて居る木の枝や水草の間から出して居るミ、ちつミも目に付かなくて、その下に千貫目もの大きな僕がかくれて居るミは誰も氣が付かないのです。僕は安心して四方の音を聞きながら又あたりを眺めながらそして又自由に呼吸をしながら水の中をミこまでも人知れず悠々ミ泳いで行けるのです。何ミうまく出來てるでせう。潜水艦が小さな展望鏡だけを海面に出して水の中を潜航しますね。あれは僕を見習つて人間が發明したんだらミ僕は考へて居ますか、さうぢやないでせうか。

僕のもう一つ自慢したい事は、耳にも鼻にも、丁度皆さんのお口の唇のやうに、閉ぢたり開いたり自由に出來る仕掛けがある事です。僕がいよ／＼水の底深くもぐり込んでしまふ時には、これできつちりミ入口を閉ぢてしまひますから耳からも鼻からも水は決して這入りません。そして十

分間位は呼吸をせずに水の中に居て平氣です。苦しくなつたら一寸鼻の先だけを水面に出してブツツミミいきまして又十分間位もぐります。

僕は元來夜歩き廻る動物で、晝間は大概水の中で晝寢をして居ます。その時は岩の上か何かに顔を乗せて、少しばかり鼻先だけ出して眠るんです。岩を枕に水中の晝寢、ミてもいゝ氣持ちですよ。

『そんな事をしたら水が冷たくて風邪をひきやしないか』
 ミ心配してくれた親切な子供さんがありましたが、なかに僕のからだには鯨君ミ同じで皮の下にウンミ澤山脂肪が
 ありますから水なんかちつミも冷たく感じないのです。御安心下さい。

僕の脚が割合に細くて短かい事は茲に申しましたが、何しろ僕は陸おがに居る時よりも水の中に居る時の方かすつミ多いので、こんな小さな脚で結構なんです。なぜだかその理窟けが皆さんお分りですか。そんな物でも水の中へ入れるミ水の壓力で目方が大變軽くなりますね。だから陸の上でこそ千貫目もある僕でも、水へ這入るミそんなに重くはあり

ません。ですから此の位の脚で十分なんです。馬なんかは陸ばかりを年中驅け廻つて居ますから、丈夫な長い脚の方が都合がいゝ筈です。馬ミ云へば皆さん、馬には蹄が一つです。牛は二つに割れてつまり二つです。處が僕には蹄が四つありますよ。それが平つたく四方へ開いて居ます。これは川原の石ころの上を歩く時でも水を泳ぐ時でも大變都合がいゝのです。

さうだ、僕にもう一つ自慢さして下さい。僕はかう見えてもこれで水泳にかけては大選手なんです。鯨や鰻鮎獸みたいなからだがまるで魚類のやうに成つてるものにはかなひませんが、四本脚で陸を歩いてる動物の中では何ミ云つても僕ミ北極の白熊君ミが一番水泳がうまいのです。本當にごつちがうまいか一度白熊君ミ選手權競泳をやつて見たいミ思つて居ますが、何しろ白熊君は寒帯の動物だし僕は反對の熱帯の動物だから、同じ水の中を一緒に泳ぐわけに行かないので困りました。動物園の僕の居る池がもつミ広いミ、そんなに僕が水泳の達人か皆さんにお目にかかるんですが、さうも此處は僕に取つて狭ま過ぎて實に残念

です。もつゝ大きな池を作つてくれるさゝなあゝそればかり毎日考へて居ます。

さて自慢話ばかりでしたが、今度は少々恥かしい事を内緒で申し上げます。笑はないで下さい。それは僕がこんなに大きなからだを持つて居る癖に、飛んでもない臆病者だ云ふ事です。

誰でも初めて僕の姿を見た人は、如何にも僕が獐猛な強い動物で、この大きく口でバクリ／＼ミ水の中の魚や陸の獸を襲つて居るんじゃないかと思ひますが、實は僕、とてもそんな恐ろしい真似はこはくて出来ないのです。僕は全く草食動物です。水の中の藻だの陸の草だのばかり食べて居ます。尤も大變大喰いですがね。何しろ僕の胃囊は一廻に一石五斗位這入りますから、普通のバケツだつたら二十杯位の分量を一度に食べないとお腹が大きくなりません。アフリカの河や湖に居る僕の友達なんか、さうかするミ近處だけでは食物が足りなくなつて人間の畑へ作物を荒しに出かける事があります。そんな時でも眞つ暗な夜、こつそりミ足音を忍ばせてビク／＼しながら出かけるので、ミ

も晝間のそ／＼陸を歩いては居られません。ゴトリミでも聞き慣れない音がするミ、忽ち吃驚仰天、大慌てゝ水の中へ逃げ込んでしまふのです。

見かけによらずあんまり臆病なのでさうも恥しいのですが、先祖代々からの性質で仕方がありません。僕も生れ故郷のアフリカのナイル河の上流から初めて日本へ来た頃は、下駄でコンクリートの上を歩く皆さんの足音がとても怖くて／＼、一日中何も食べないで水の中ばかり潜ぐり込んで居たものです。お腹が空いて全く困つたんですが、さうにも頭が出せませんでした。近頃はもうすつかり慣れて平氣になりましたが、それでもやつぱり僕は晝間は寢て居て夜起きて歩き廻るのが好きです。だから皆さんが動物園へ僕を訪ねて下さつても、よく晝寢して居て大變失禮して居ます。夜だミすつミ起きて居ますから都合がいゝのですが止むを得ません。

それから僕、時々皆さんの方を向いて特別大きな口をカ／＼開いて見せる事がありますね。大きな鋭い牙、眞赤な廣大な舌、そして子供さんの二人位なら樂に這入れる位

な途方もない大きな口ーするぞ。

『やア河馬が怒つたア……』

「吃驚して逃げ出す子供さんなんかありますが、あれは怒つたのではないのです。」

虎や獅子なき怒つた時に牙をむき出して口をカツミ開きますが、僕は元來臆病者ですから人間に向つて怒つて見せるなんて大膽な事はとても出来ません。僕が口を大きく開いた時は、實は非常にうれしい時なんです。全く反対ですよ。

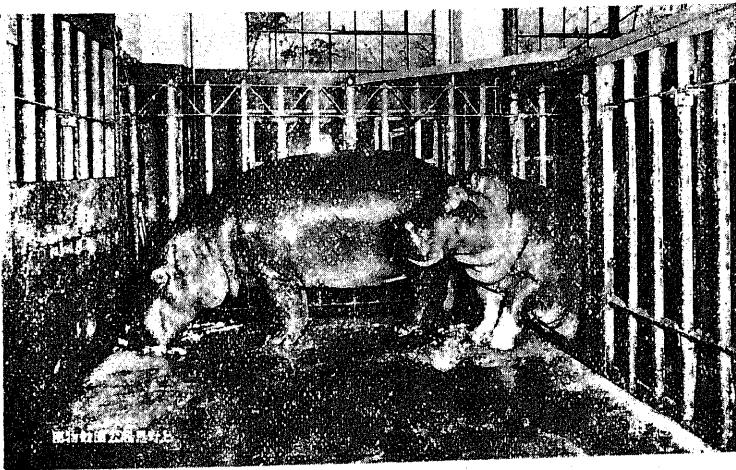
皆さんが嬉しくて笑ふ時に大きな口を開けますね。あれと同じなんです。僕は嬉しければ嬉しい程口を大きく開きます。上顎と下顎が丁度直角になるまで開けられます。

今度僕をお訪ね下さつた時、若し僕が大口を開けましたら、それはとてもうれしくて大喜びであなたを歓迎して居るしるしなんですから、そのつもりで何か食べ物でも口へほうり込んで下さい。お頼みます。

ではこれで失禮致します。さよなら。

お池の中の潜水艦

ヒツボより



馬河の園物動物園公賜恩野上

此一篇は動物生活を子どもに知らせる一方法としての試みで、幼稚園の方々の批判を願つて居ります(作者)